

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第三中学校（岩手県）

【取組内容①】「個別最適な学びと協同的な学びの一体化を実生活につなげる実践」
～授業で検討した給食メニューが実際に提供されることによる“切実感”をもたせる取組

第1学年家庭科『栄養バランスのとれた希望献立を考えよう』

望ましい栄養や食事のとり方を考えながら、給食1食分の献立メニューを生徒一人ひとりが考えます。

指導者は紫波町の栄養教諭。いわゆる“出前授業”です。

栄養バランスのとれた献立を考えるためには、主食・主菜・副菜・汁物をそろえることが大切で、確かめるためには、食品群を点検することがよいことを学習します。

食品群と献立のエクセルシートは、生徒がタブレットにダウンロード。

給食1食分の予算は330円。生徒は和洋中のメニューから望ましい

献立を考え、シートをクリック。栄養バランスは？季節感は？

生徒は、友達と意見交換をしながら、考えを深め、献立が完成。

授業の振り返りは二次元コードを使い、シートに記入。給食センターが集約し、センターは今後の運営に活かします。

生徒一人一人が考えたメニューの中から、実際に1人のメニューが採用され、紫波町の全小中学校で提供されます。

誰のメニューが採用されるのか……生徒はワクワクしながらその日を待っています。



望ましい献立を検討



友達と意見交換

【取組内容①「思考力・判断力・表現力を高める個別最適な学びと協同的な学びの一体化」】

～学習支援ソフトを有効に活用し、思考力・判断力・表現力を高めることにつなげる取組～

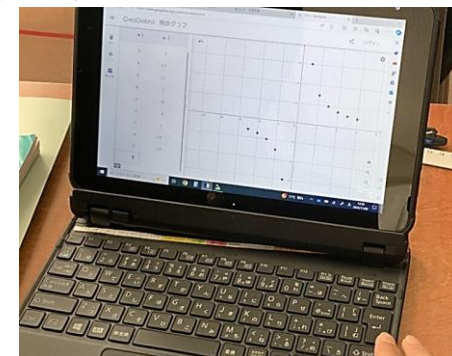
第1学年数学科『反比例のグラフにはどのような特徴があるのだろうか』

反比例の表から座標を読み取り、負の数まで点をプロットし、線をつなぐ際は直線なのか、そうでないかを個人で考え、話し合います。そして、わかっている点の間に細かく点を打ちながらどのような軌跡を描くかを分析しました。

生徒はこれらの答えと、グラフをそれぞれ学習支援ソフトで提出。提出された回答をもとに反比例のグラフの特徴を整理しました。

デジタル教科書で、グラフは点の集まりで、双曲線になっていることについては、実際の操作を通して確認しました。また、電卓のグラフ機能を使って、y軸やx軸にくっついていないように見えても、0になっていないことを操作を通して確認しました。

グラフは点の集合であり、双曲線になること、y軸やx軸には交わらないことを、実際に数学用デジタルツールや電卓のグラフ機能を使って考察した結果と照らし合わせながら確認することで学びを深めていきました。



グラフ作成ツールによる分析



デジタル教科書による確認

【取組内容①】「思考力・判断力・表現力を高める個別最適な学びと協同的な学びの一体化」

～学習支援ソフトを有効に活用し、思考力・判断力・表現力を高めることにつなげる取組～

第1学年理科『滝名川周辺はどのような大地で出来ているのだろうか』

カメラ機能を使用し、実際の岩石の写真を撮り、学習支援ソフトのレポート用紙に添付します。

生徒は、色、粒の大きさ、粒の形について、岩石を割ったり、見本と比較したり、塩酸をかけたりして岩石の正体を調べていきます。

そして、過去のレポートも参考にしながら、岩石の正体について、自分の考えを学習支援ソフトに記入し、提出しました。

さらに、タブレットを使いながら、他者と交流し、考えを深めていきます。

最後は端末を利用して、地質データと自分の調査結果について確認をしました。

タブレットに国土地理院の地図(滝名川上流の様子)と地質図をみるWebサイトで重ね合わせてみると、実際手元にある岩石が滝名川周辺のものであることがわかり、感嘆の声が上がっていました。

実物を調べ、まとめと検証にはタブレットを使うことでより切実感を感じる授業を展開することができました。



カメラ機能で岩石の写真を撮影



岩石を調べ学習支援ソフトに記入



地質図を見るWebサイトで確認

【取組内容①】「思考力・判断力・表現力を高める個別最適な学びと協同的な学びの一体化」

～学習支援ソフトを有効に活用し、思考力・判断力・表現力を高めることにつながる取組～

第3学年社会科『さまざまな国際問題』

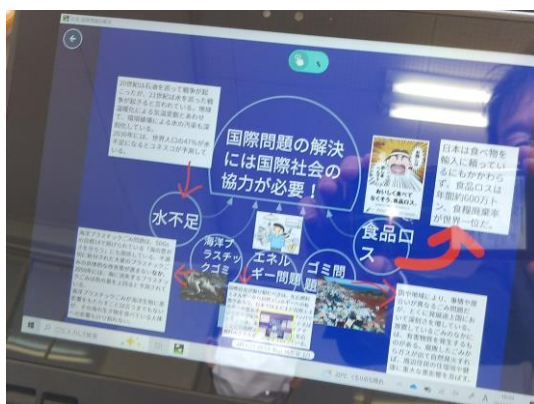
3学期に行った3年生社会科(公民的分野)の授業です。

「国際問題の解決には国際社会の協力が必要である」という課題について、生徒は前時から個人で調べ、その根拠を多面的・多角的に考察し、学習支援ソフトにマッピングしました。

マッピングが終わったグループから、各々が作成したマッピングについて、協議し、さらに理解を深めます。

そして、修正等を加え、完成したノートは、提出箱に提出します。

提出まで終わった生徒は、評価問題に取り組み、学習内容の定着を図りました。



個別にシンキングツールを選択して活用



生徒が学習過程や学習形態を自己決定、自己調整する様子

リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第三中学校（岩手県）

【取組内容④】「校務支援ソフトの利用による諸帳簿作成事務の効率化」

～通知表、出席簿、指導要録等の作成において効率化を図ることによる働き方改革の推進～

通知表、出席簿、指導要録等々、諸帳簿の作業と処理に一括して校務支援ソフトを利用して
います。

業務の効率化が図られるとともに、「働き方改革」に大きく寄与しています。

（下は昨年度末から試験的にはじめた出席簿の校務システム運用に係る説明の一部）

- 1 デスクトップからアプリを開きます
※パスワードは各自のものです。
- 2 出席簿を開きます
※1度に1人しか開けません。その都度「×」をお忘れなく。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

紫波町立紫波第三中学校（岩手県）

【取組内容⑤】「生徒会活動の効率化と活発化」

～Microsoft Teamsを利用した生徒間の情報交換と持ち帰りによる生徒会執行部間の企画検討～

Teamsに紫波三中全校生徒チームを作成し、生徒間でさまざまな交換をすることができるようにしています。

生徒総会の議案書は紙媒体の印刷ではなく、全生徒がタブレットにダウンロードし、持参しています。質問意見を述べる生徒の中には、議案書の隣に、発言内容を貼り付け、活用している者もいます。

資源の節約にも役立ち、このこと自体が環境教育の一環にもなっています。

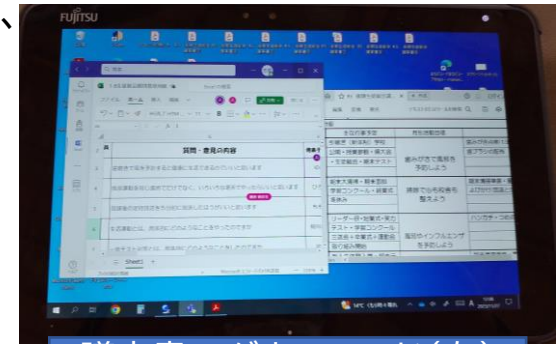
運動会や文化祭の企画立案も生徒会執行部が「宿題」と

して家庭にタブレットを持ち帰り、作業をするときもあります。

生徒会のアンケートも**Teams**を利用し、実施から集計まで生徒が行っています。

ふわふわ言葉アンケートは、執行部が30の言葉を校舎内に掲示しました。

生徒自らが考えて動くことで、主体生を育むことにもつながっています。



議案書のダウンロード(右)
自分の発言内容を貼付(左)



タブレット持参の生徒総会



ふわふわ言葉アンケート